事務事業評価シート（多可町教育委員会）

担当課	課長名	記入者
社会教育課　課	内橋　茂	吉田　勇二

1　事務事業の概要　＜Plan①＞

事務事業名	新規・継続	事業開始年度	完了予定年度
放課後子どもプラン事業	□新規 ○継続	H19　年度 □H19以前	□年度 ○未定

事務事業の体系

計画掲載	多可町総合計画	(章) 2 笑顔でつつむ、あったかいまち	(節) 1 のびのび育とう、育てよう
		(基本計画) 安全・安心の取り組み	
	個別計画		

根拠法令・条例・要綱等	事業区分（該当する区分に「○」）			
	○	ソフト事業	□	施設の維持管理
	□	義務的事業	□	内部管理事務
事務事業の具体的内容	□	建設・整備事業	□	計画などの策定

町内7小学校区において、地域住民の見守りのもと、放課後の子どもたちが安心・安全に群れ遊びのできる場を提供する。	補助金の支給	○有 □無
	委託 □	全部委託
	○	一部委託
	□	委託なし(全部直営)

2　事務事業の目的　＜Plan②＞

対象　(働きかける相手・誰が・もの)	受益者　(誰を・何を)	意図　(どういう状態にしたいのか)
地域住民	小学校児童	地域で子どもを支える体制の強化を図るとともに、遊びを通じた子どもたちの健全な育成を図る。

3　事務事業にかかる予算細目　＜Plan③＞

会計名：一般　会計

細目名	社会教育総務費				細目名	社会教育総務費				細目名	社会教育総務費			
予算コード	款	項	目	節	予算コード	款	項	目	節	予算コード	款	項	目	節
	10	5	1	8		10	5	1	11		10	5	1	12

4　事務事業実施にかかるコスト　＜Do①＞

事務事業・人員			単位	19年度 決算	20年度 見込	21　年度 計画	備　考 (全体事業費など)
総　コ　ス　ト			千円	1,324	1,305	1,294	
コストの内訳	直接事業費			1,324	1,305	1,294	
	所属内間接費						
	投入人員	正職員	人/年	0.10	0.10	0.10	
		嘱託員					
財源内訳	国・県支出金		千円	882	744	698	
	地方債						
	その他特定財源						
	一般財源			442	561	595	

5　事務事業の手段＜Plan④＞と活動指標　＜Do②＞

事務事業を構成する業務		手段 (事務事業整理シートより)	活動指標 (手段の数値化)	単位	19年度 実績	20年度 実績	21年度 目標
1	事業計画	校長会、教頭会において学校との調整を図るとともに、児童クラブ担当の子ども課とも連携を図っている。また、安全管理員（地域住民）からの提案や意見をいただくためのスタッフ会議も年2回開催している。	事業実施学校園数	校	7	7	7
2	補助金申請						
3	実績報告						
4	補助金受領						
5							

(ソフト事業)

事務事業名　[放課後子どもプラン事業]

6　事務事業の実績　＜Do③＞

成果指標(意図の数値化)	単位	19年度 実績	20年度 実績	21年度 目標	備　考 (成果指標の考え方･計算方法)
事業実施学校園数	校	7	7	7	小学校数

7　事務事業の事後評価　＜Check＞　(ソフト事業)

チェック項目			該当項目に「○」						担当の把握している課題
必要性	需要への対応性	住民ニーズは	○	高い		高くない		把握なし	
		緊急性は	○	高い		高くない			
		利用者･対象者数は	○	増加		減少		横ばい	
		他市町と比較して対象者に見直しの余地は	○	ない		ある		把握なし	
	町の関与の必要性	民間の事業(サービス)との競合は	○	ない		ある			
		国や県の事業(サービス) との重複は	○	ない		ある			
妥当性	サービス水準の妥当性	事業開始時から社会環境の変化は	○	ない		ある			
		環境変化によるサービス水準の見直しの余地は	○	ない		ある			
		他市町と比較してサービス水準の見直しの余地は	○	ない		ある		把握なし	
	連携の可能性	他課で類似の事業は	○	ない		ある			
		他の事業と統合できる可能性は	○	ない		ある		あるが困難	
		民間や他の行政機関と連携できる可能性は	○	ない		ある		あるが困難	
		市民団体･ボランティアなどと協働できる余地は		ない	○	ある		あるが困難	
効率性	手段･プロセスの効率性	事務事業を構成する業務に見直しの余地は	○	ない		ある			
		コスト削減の観点から実施方法を見直す余地は		ない	○	ある			
		ｻｰﾋﾞｽ向上の観点から実施方法を見直す余地は		ない	○	ある			
		受益者負担を見直す余地は	○	ない		ある			
有効性	目標の達成度	成果指標が明らかで	○	ある		ない			
		前年より成果が上がって	○	いる		いない		横ばい	
	持続の可能性	継続することによる効果は	○	高い		高くない			
		世代間負担の公平性、社会的平等性が保たれて	○	いる		いない		測定困難	
		事業の休･廃止による住民への影響は	○	大きい		大きくない			

市場化の可能性							
	既に全部委託済		更なる委託化が可能である		委託化の余地があり		委託化は不可能
	市場化テストの導入について検討する余地がある	○	市場化テストの導入を検討する余地はない				

改善の可能性				
	1.改善の余地はない	○	2.改善の余地がややある	
	3.改善の余地が多い		4.抜本的な見直しが必要	

8　改善提案と今後の改善の方向性　＜Action＞

職場からの意見	今後の具体的な取り組み
(施策を取り巻く環境) 本事業による安心･安全な群れ遊び場の提供は、子どもや保護者にとっても貴重なものである。	(課長としてこの事業をどのようにしていきたいか) 安心･安全な場所で、多くの子どもたちが異年集団による群れ遊びができる環境整備を図り継続する。
(課題の解決についての提案など) 地域住民による見守り体制をさらに充実させるとともに、実施回数や対象学年の拡大など、さらに子どもたちのニーズに合った支援体制を考えていく必要がある。	自己評価　4. 目標を大きく達成されている。

今後の方向性							
	1.重点的に継続		2.現状のまま継続	○	3. 内容を見直しながら継続		4.縮小を検討
	5.統合･連携を検討		6.休止･廃止を検討		7. 終了･完了		